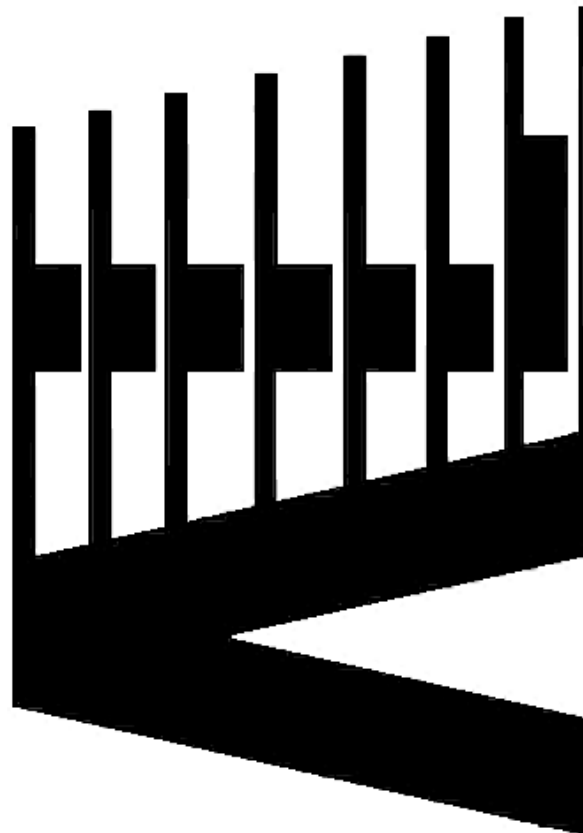
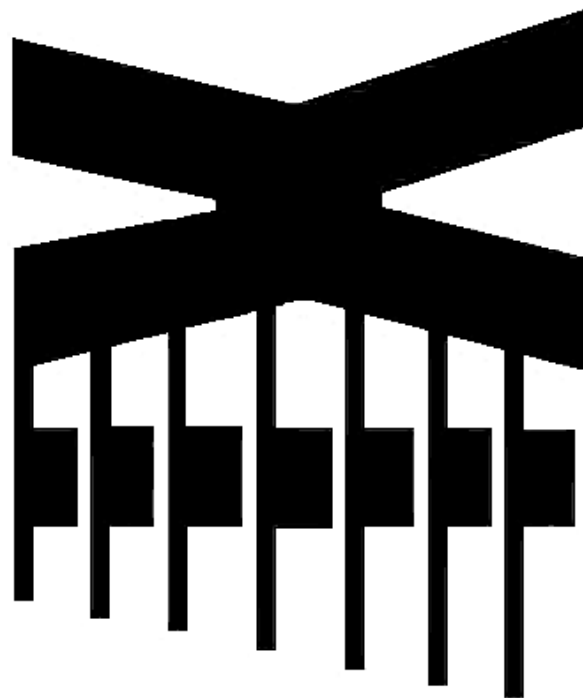


“アルビクス” VA ERROR DETECTION UNIT
VAD - 310A

取扱説明書

Ver. 1.0



御使用の前に必ず本取扱説明書をよく読んで理解して、安全の為の指示に従って下さい。

もし、不明点が有れば販売店か弊社におたずね下さい。

目 次

注意事項	2
1．主な機能と特長	3
2．仕様	4
3．各部の名称と機能	5
4．接続方法	8
5．IPアドレスの設定	9

御使用上の注意事項

必ずお守り下さい(安全にお使いいただくために)

警告

内部に液体をこぼしたり、燃え易い物や金属類を落としてはいけません。
(火災や感電、故障の原因となります。)

煙が出たり、異常音、臭気などに気が付いたときは、すぐに電源コードを抜いて販売店に御連絡下さい。

注意

電源プラグの接続が不完全なまま使用しない。
(感電やショート、火災の原因となります。)

電源コードを引っ張ったり、重いものをのせたりしない。
(電源コードが損傷し、火災や感電の原因となります。)

電源コードを引っ張ってコンセントから抜かない。
(感電やショート、火災の原因となります。)

仕様にて規定された電源電圧以外では使用しない。
(火災や感電の原因となります。)

お願い

風通しの悪い所に置いたり、布などで通風孔を塞いだりしないで下さい。
(故障の原因となります。)

次の様な所には置かないで下さい。
湿気が多い所、油煙や湯気の当たる所、直射日光の当たる所、熱器具の近く
埃の多い所、強い磁気のある所、極端に寒い所、極端に暑い所、激しい振動のある所
安定しない台の上、傾いた所
(故障の原因となります。)

1 . 主な機能と特長

1 . 1 V A D - 3 1 0 A の特長

HD - S D I / S D - S D I映像 (S D Iエンベデッドオーディオを含む) のエラーを検出し、エラー内容を S N M P エージェントにより外部に通知します。

映像 / 音声のエラーを検出する際、エラーと判断するしきい値は外部から S N M P 経由で任意に設定可能です。
設定値は内部でバックアップされ、電源を切断しても保持されます。

エラー検出基板は最大 1 0 枚まで筐体の実装可能で、最大実装の場合
は筐体 1 台で 1 0 系統のエラー検出処理が可能です。

また、筐体の電源は互いに独立した二つの電源ユニットで二重化
することができます。この場合、どちらか一方が故障した際、稼動状態を
維持したままで交換する事が可能です。

2 . 仕様

2 . 1 . エラー検出基板仕様

S D I 映像・音声入力信号

入力信号数	: 1 系統
信号形式	: 映像 : S D - S D I SMPTE 259M-C (480i) HD - S D I SMPTE292M (1080i)
	: 音声 (SDIエンベデッドオーディオ) :
	48KHz/16bit/4 c h (SD-SDI)
	48KHz/16bit/8 c h (HD-SDI)
入力接栓	: B N C コネクタ

外部通知

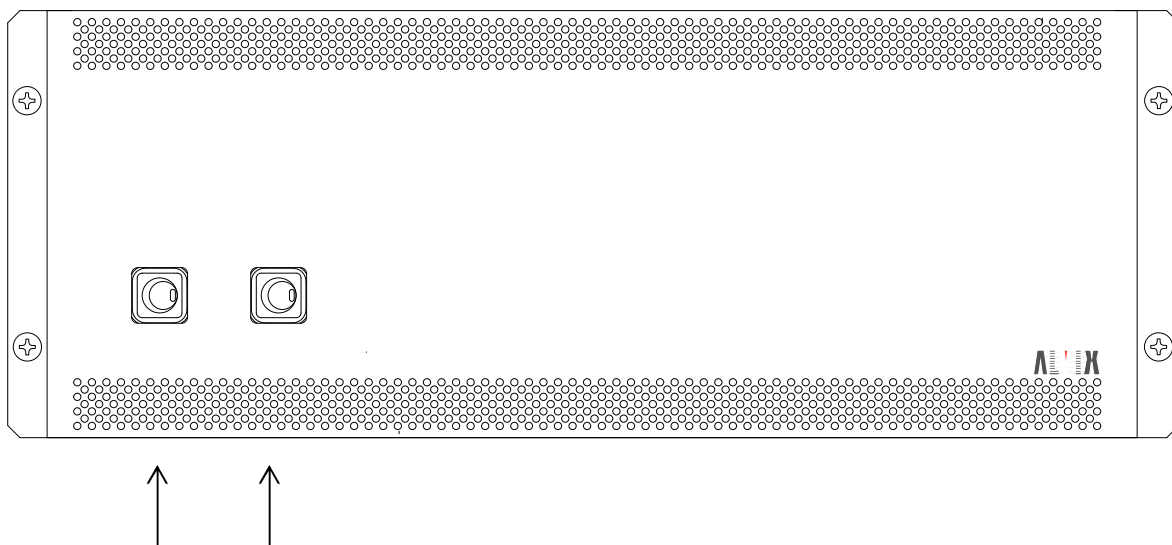
通信仕様	: 100BASE-TX/10BASE-T 対応 LAN インタフェース
プロトコル	: S N M P V 2
コネクタ	: R J - 4 5 モジューラ

2 . 2 . 筐体仕様

筐体寸法	: W 4 3 0 × H 1 7 6 × D 5 5 5 mm (突起部を含まず)
基板実装数	: 最大 1 0 枚
質 量	: 約 2 0 k g (最大)
電源電圧	: 1 0 0 V ± 1 0 % A C 5 0 / 6 0 H z
基板消費電力	: 約 3 5 0 V A (最大)
使用温度	: 5 ~ 4 0

3 . 各部の名称と機能

< 筐体フロントパネルの機能 >

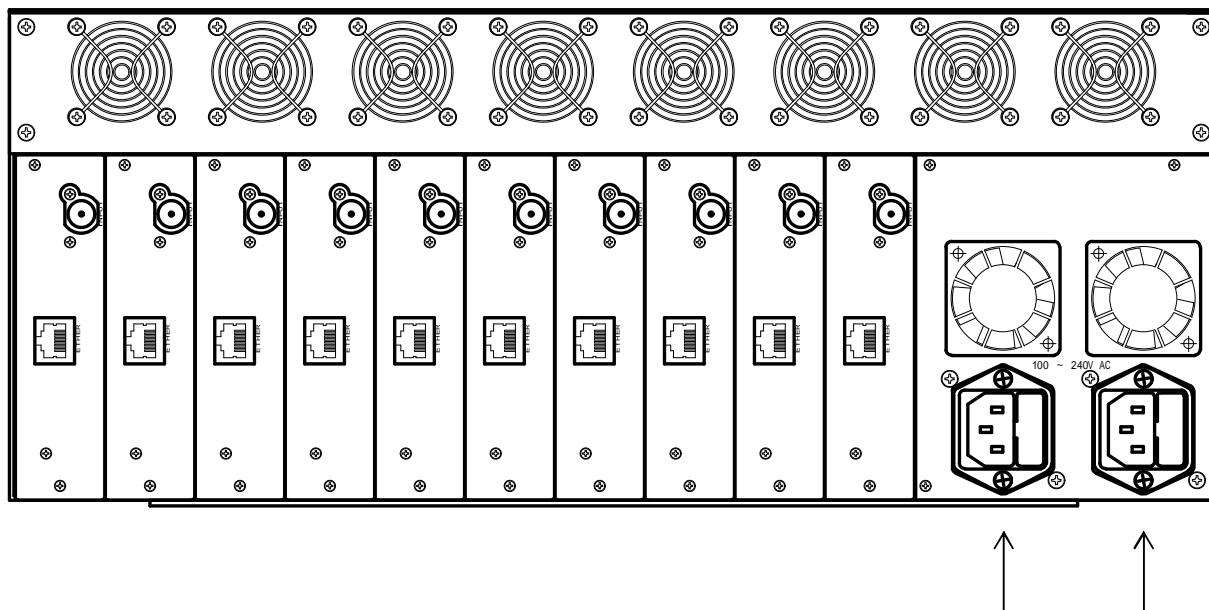


1 . POWER

- ・電源スイッチです。
フロントパネルを左側を開く事によって、電源スイッチを操作可能となります。
上図は、電源二重化の搭載例で、各電源にスイッチが設置されています。通常は
両方のスイッチを投入した状態で使用して下さい。

< 筐体リアパネルの機能 >

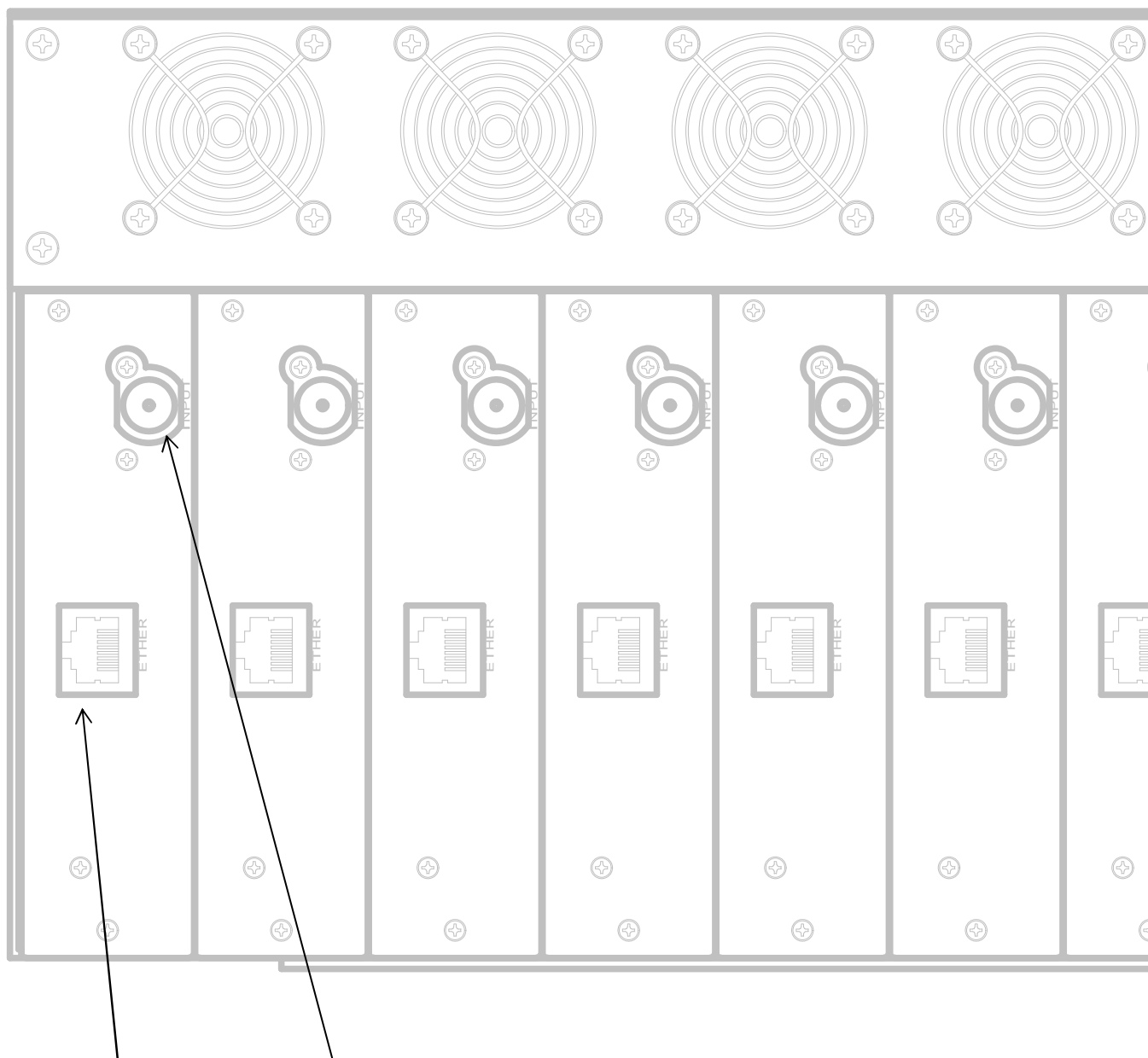
- ・ 筐体リアパネル全体図
(エラー検出基板を筐体の全スロットに実装した状態)



2 . AC INPUT

- ・ AC 入力(3P インレット)です。
上図は、電源二重化の搭載例で、各電源に AC 入力端子が設置されています。
通常は両方の AC 入力を AC100V に接続した状態で使用して下さい。

・基板実装部分 拡大図



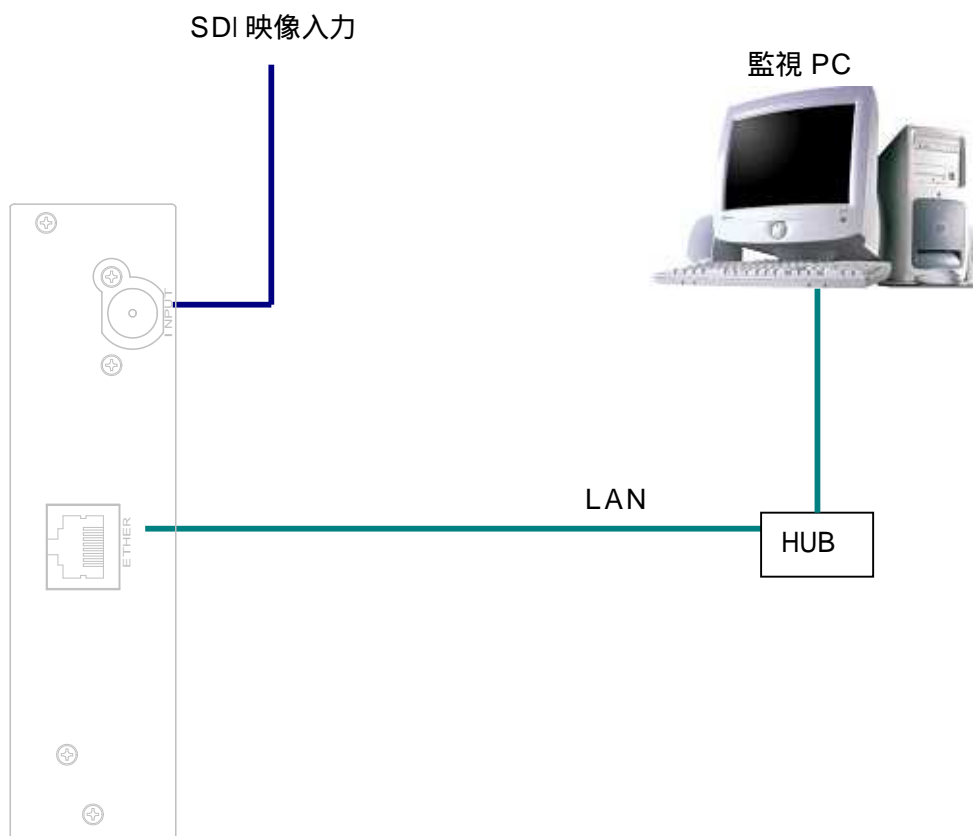
3 . ETHER (SNMP 用 LAN)

100BASE-TX / 10BASE-T 対応の LAN コネクタです。
外部 PC との SNMP 通信に使用します。

4 . IN (SDI 映像入力)

HD/SD-SDI 映像を入力します。

4 . 接続方法



5 . I P アドレスの設定

5 . 1 . エラー検出基板の I P アドレスの設定

エラー検出基板の I P アドレスは、専用ツール ” T A S e t u p X ” で変更します。

- ・エラー検出基板と Windows PC を、LAN 経由
(HUB 経由またはクロスケーブル直結) で接続します。
- ・ Windows PC 上で “ T A S e t u p X . e x e ” を起動します。
PC の OS が WindowsXP サービスパック 2 以降 / WindowsVista の場合は、
ソフトの起動前に Windows ファイヤーウォールを無効に設定して下さい。
Windows ファイヤーウォールが有効の場合、設定が正しく出来ない場合があります。
- ・ [T A 管理] -> [その他の検索] -> [リフレッシュ検索] を実行すると、
接続されている検出基板の I P アドレスが下記のように表示されます。

The screenshot shows a window titled "Set 10.9.10.78 - TA リモートセットアップ X". The window contains a menu bar with "ファイル(F)", "ネットワーク(N)", "TA管理(T)", "表示(V)", and "ヘルプ(H)". Below the menu bar is a table with the following data:

No.	機種	シリアルNo.	MACアドレス	IPアドレス	備考
1	TA-100KR-XXシリーズ		00A0C20BD387	10.9.10.122	

At the bottom of the window, there is a status bar with the text "レディ" and a "NUM" button.

(上記のアドレス表記は一例です。実際の製品のアドレスは上記とは異なります)

- ・表示された IP アドレスの行をクリックし、[TA 管理]->[設定取得]を選択すると、下記の画面（以下「設定取得画面」と表記）が表示されます。

TA-100KR-Xシリーズの設定取得

LAN設定			
自IPアドレス	10.9.10.151	通信リカフラグ	無効
自ポート番号	257	無通信監視タイマ	0
宛先IPアドレス	2.2.2.2	ユーザ名	
宛先ポート番号	514	パスワード	
サブネットマスク	255.255.255.0	フィルタターミナー	
ゲートウェイアドレス	10.9.10.5	オートネゴシエーション	自動
キープアライフタイマ	0	MTU値	1500
コネクトタイマ	2		

シリアル設定		システム設定	
ボーレート	9,600bps	LANデフォルトプロトコル	FtpSv
データ長	8ビット	RSデフォルトプロトコル	Serial
ストップビット	1ビット	BOOTP有効フラグ	無効
パリティ	なし	DHCP有効フラグ	無効
フロー制御	なし	起動プログラム名	設定画面
コネクション情報通知	無効	汎用設定項目	設定画面
コネクション監視	無効	SNMP設定	設定画面
アイドルタイマ	0	動作モード (取得のみ)	通常動作0
レポートターミナー	0D0A		

ネットワーク外

送信 戻る

（上記のアドレス表記は一例です。実際の製品のアドレスは上記とは異なります）

- ・[自 IP アドレス] 欄（上記画面の赤枠部分）の IP アドレスを変更し、「送信」ボタンをクリックします。
- この時、[自 IP アドレス] 以外の項目は絶対に変更を行わないで下さい。
- （エラー検出基板が正常に動作しなくなります）

5.2. Trap先IPアドレスの設定

- ・前項と同様の手順で、設定取得画面を表示します。
- ・設定取得画面で「SNMP設定」ボタン（下記画面の赤枠部分）をクリックします。

TA-100KR-Xシリーズの設定取得

LAN設定			
自IPアドレス	<input type="text" value="10.9.10.151"/>	通信リカフラグ	<input type="text" value="無効"/>
自ポート番号	<input type="text" value="257"/>	無通信監視タイマ	<input type="text" value="0"/>
宛先IPアドレス	<input type="text" value="2.2.2.2"/>	ユーザ名	<input type="text"/>
宛先ポート番号	<input type="text" value="514"/>	パスワード	<input type="text"/>
サブネットマスク	<input type="text" value="255.255.255.0"/>	フィルターミネータ	<input type="text"/>
ゲートウェイアドレス	<input type="text" value="10.9.10.5"/>	オートネゴシエーション	<input type="text" value="自動"/>
キープアライフタイマ	<input type="text" value="0"/>	MTU値	<input type="text" value="1500"/>
コネクトタイマ	<input type="text" value="2"/>		

シリアル設定		システム設定	
ボーレート	<input type="text" value="9.600bps"/>	LANデフォルトプロトコル	<input type="text" value="FtpSv"/>
データ長	<input type="text" value="8ビット"/>	RSデフォルトプロトコル	<input type="text" value="Serial"/>
ストップビット	<input type="text" value="1ビット"/>	BOOTP有効フラグ	<input type="text" value="無効"/>
パリティ	<input type="text" value="なし"/>	DHCP有効フラグ	<input type="text" value="無効"/>
フロー制御	<input type="text" value="なし"/>	起動プログラム名	<input type="text" value="設定画面"/>
コネクション情報通知	<input type="text" value="無効"/>	汎用設定項目	<input type="text" value="設定画面"/>
コネクション監視	<input type="text" value="無効"/>	SNMP設定	<input type="text" value="設定画面"/>
アイドルタイマ	<input type="text" value="0"/>	動作モード (取得のみ)	<input type="text" value="通常動作0"/>
レポートミネータ	<input type="text" value="0D0A"/>		

ネットワーク外

- ・「SNMP 設定」ボタンをクリック後に下記の画面が表示されます。



SNMP有効/無効	有効	コミュニティ違反TRAP有効/無効	有効
TRAP先IP	10.9.10.77		
識別番号	19892		
GET用コミュニティ名	public		
SET用コミュニティ名	public		
TRAP用コミュニティ名	public		
CONTACT			
LOCATION			
NAME			

上記の Trap 先 IP の表記は一例です。実際の製品の Trap 先 IP は上記とは異なります。
また、GET/SET/TRAP 用コミュニティ名は、上記画面の表記とは異なる場合があります。

- ・ [TRAP 先 IP] 欄 (上記画面の赤枠部分) の IP アドレスを変更して「OK」ボタンをクリックします。
この時、[TRAP 先 IP] 以外の項目は絶対に変更を行わないで下さい。
(エラー検出基板が正常に動作しなくなります)
- ・ SNMP 設定画面がクリアされて設定取得画面に戻った後、
設定取得画面の「送信」ボタンをクリックします。

5.3. 複数のTrap先IPアドレスの設定

複数のTrap先IPアドレスを設定する場合は、必ず前項で最初の1個目のTrap先を設定して下さい。

前項での設定を行わずに本項目のみ設定を行った場合は正常に動作しません。

- ・前項と同様の手順で、設定取得画面を表示します。

TA-100KR-Xシリーズの設定取得

LAN設定

自IPアドレス: 10.9.10.151 | 通信トリガフラグ: 無効

自ポート番号: 257 | 無通信監視タイマ: 0

宛先IPアドレス: 2.2.2.2 | ユーザ名:

宛先ポート番号: 514 | パスワード:

サブネットマスク: 255.255.255.0 | フィルタマネータ:

ゲートウェイアドレス: 2.2.2.2 | オートネゴシエーション: 自動

キーフライクタイマ: 0 | MTU値: 1500

コネクタイマ: 2

シリアル設定

ボーレート: 9,600bps

データ長: 8ビット

ストップビット: 1ビット

パリティ: なし

フロー制御: なし

コネクション情報通: 無効

コネクション監視: 無効

アイドルタイマ: 0

リモートマネータ: 0DOA

システム設定

LANデフォルトプロトコル: FtpSv

RSデフォルトプロトコル: Serial

BOOTP有効フラグ: 無効

DHCP有効フラグ: 無効

起動プログラム名: 設定画面

汎用設定項目: 設定画面

SNMP設定: 設定画面

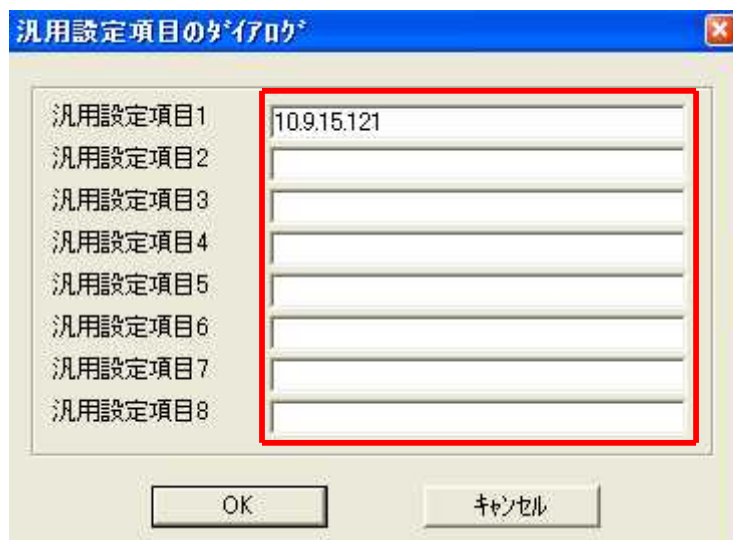
動作モード (取得のみ): 通常動作0

ネットワーク外

送信 戻る

- ・設定取得画面で「汎用設定項目」[設定画面]ボタン（赤枠部分）をクリックします。

- ・「汎用設定項目」ボタンをクリック後に下記の画面が表示されます。



- ・ [汎用設定項目 1 ~ 8] (上記画面の赤枠部分) を変更し、[OK]をクリックします。
T r a p先IPアドレスは最大で8箇所まで設定が可能です。
本項目の設定を行う事によって、前項で設定した最初の1個目のT r a p先と合わせて計9箇所までT r a pを送信可能です。
- ・ 設定取得画面に戻った後、設定取得画面の「送信」ボタンをクリックします。

5.4. IPアドレス / Trap先変更後のVAD再起動

- ・ VADの筐体電源を一旦切断して再度投入します。
筐体電源を二重化している場合は、電源を両方とも完全に切断してから再度投入します。

お問い合わせ先

お買い上げいただきました弊社製品についてのアフターサービスは、お買い上げの販売店におたずねください。
なお、販売店が不明の場合は弊社へお手数でもご連絡ください。

故障・保守サービスのお問い合わせは

販売店：

TEL
担当

製品の操作方法に関するお問い合わせは

無断転載禁止

アルビクス株式会社

〒959-0214

新潟県燕市吉田法花堂1974-1

TEL：0256-93-5035

FAX：0256-93-5038